

Pan-Report™

発行; PanRolling Inc.
年間購読料 63,000 円
無断転用禁止

#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax 03-5386-7393

《ヘッジファンドに投資する方法》 1/2

ヘッジファンド

足立 真一

最低の単位は10万ドルからできる

私が早くからヘッジファンドに関心をもったのは、偶然ではあったが若い頃、ヘッジファンドの実質的な創始者であるジョージ・ソロスにめぐり合うことができたからである。

1972年、つまり、ニクソン・ショックの翌年だが、ソロスが東京にやってきた。日本が戦後、一貫して1ドル=360円の固定為替を維持してきたが、ついに308円の円高に切り上げを迫られたときであった。本人に確認はしてはいないが、そのときが初めての来日ではなかったかと思う。当時、日本にやってくる外人は4大証券と接触するのが常識であったが、ソロスはある日、突然に近い形で、私の勤める準大手証券に飛び込んできた。仲間の外人投資家がたどるコースを多少は外してみようという気持ちからであったのではないかと、あとで気がついた。いかにもソロスらしいが、いまひとつ、びっくりしたのは、1時間ほどの話しの中で、私が勤めた株の買い注文をその場で出してくれたことである。

ソロスの肩書きはアンホールド・ブレインシュローダーという証券会社の調査部長。1969年にカンタム・ファンドを設立しているのだから、ヘッジファンドを始めて2年目のことであった。当時はいまのように通信網が発達しておらず、もっぱらテレックスを利用した時代だ。米国に拠点を持たないわれわれは、ひんぱんに接触が取れず、その後、すっかりソロスのことは頭の中から消えてしまった。その後、これも偶然のことに、知人がソロスの日本株運用を1部を委託された。1982年のことだ。そのときはソロスに面会を申し込んだが、実現できなかった。知人のおかげで、証券会社としての付き合いを持つことはできた。そのときには、すでにメディアにも時々、取り上げられ名前は知る人ぞ知るの存在ではあったが、そんなに有名ではなかった。あるいは表に出ることを嫌ったからかも知れない。しかし、この2回の経験のおかげで、早くから彼の行動と、ヘッジファンドに対する関心を高めてくれた。

さきにも触れたように、ソロスは1969年にカンタム・ファンドをスタートした。その年の1月末の運用資産は618万ドル(22億円強)であった。カンタム・ファンドは1999年に32年の歴史を閉じる。1999年の年次報告書にはソロス自らが「スタート時に10万ドルを投資すれば、535,177,338ドルになった」と書いている。実に5351倍である。この記録は20世紀が生んだ最大の投資家といわれるウォーレン・バフェットの3000倍を凌ぐ。カンタム・ファンドの足跡をたどると、マイナスの年は1981年の-22.9%と1996年の-1.5%のわずか2年だけである。このような、だれもが達成したことのない成果を上げたのは、まずマイナスを最小限に食い止めるという、「言うは易く、実行は困難」なことを実践できたからである。

今回のレポートは前文が長くなってしまった。ヘッジファンドをうまく選んで投資すれば、いかに資産形成に大きな成果が果せるかを知ってもらうためである。これから、本欄でヘッジファンドでの運用や、ファンドマネジャーの行動を追跡していくが、ヘッジファンドを語ることは「ソロスにはじまり、ソロスに終わる」というのが、私の持論であるからだ。彼のような天才を見つけて投資することが、私の仕事のひとつである。友人のマーク・ファーバー博士とソロス論を語り合っ

監修 / パンローリング
<http://www.panrolling.com/>

TEL03-5386-7391 後藤
E-mail; goto@panrolling.com

Pan-Report™

発行; PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax03-5386-7393

《ヘッジファンドに投資する方法》 2/2

ヘッジファンド

足立 眞一

たことがある。結論は「ソロスは天才だ。あのような偉業は天才にだけできることだ」で一致した。

7月末、パンローリングの主催で、株式投資のセミナーを行った。ヘッジファンドについて、限られた時間ではあったが話をした。時間が足りずに、十分に説明ができなかった。そのときに感じたのは、意外に「どうして投資するか？」といった、ごく初歩的な知識さえ持ち合わせてない方が多かったことである。そのABCを書かねばならないと思った。

ヘッジファンドが、われわれ日本人に一般的に投資対象として考えられるようになったのは1998年のビッグバンからである。為替取引が自由化され、海外送金が制約なしにできるようになった。

ヘッジファンドの投資には、まず海外のプライベート・バンクに口座を開くのが一番簡単である。そして、そこへ送金する。いったん口座を開くと、ヘッジファンドだけではなくアメリカ株もロシア株も、その口座で投資できる。例えばウォーレン・バフェットのパークシャー・ハザウェイは値がさ株（1株が71,900ドル）で単位株数の100株投資すれば8億6000万円入用。しかしプライベート・バンクの口座を利用すれば、端株である1株単位から投資できる。ただ普通は口座を開くのに100万ドルを要求されるところが多いが、私は有力な銀行と交渉して10万ドルで開設できるようにした。

大切なのは信頼できる銀行かどうかの判別、そしてどのヘッジファンドがよいかの選定。これはプロに委ねるしかないし、投資した後のパフォーマンスの分析、解約などの手続きは、専門家に任せるのがよい。どんなファンドに投資するかは、これから本欄でご紹介する。

さて初めに書いたソロスのファンドはなくなったのか。

2000年7月1日から、新しくカンタム・エンドウメント・ファンドと名前を変えて存続している。おもに外部の有力なヘッジファンドに投資する、ファンド・オブ・ファンズにしたが、他のファンド・オブ・ファンズと一線を画しているのは、運用資産の15-20%をソロス自らがマクロ運用（株価指数、金利、為替、商品など）していることである。

新しいファンドのパフォーマンスは次の通り。

2000年 +4.5% 2001年 +13.8% 2002年 -1.7%

この3年の波瀾期を泳ぎきっている。1株の直近の価格は2万5000ドルなので、1株からの投資は、口座さえ開けば可能だ。ヘッジファンドへの投資を考える時だ。

監修 / パンローリング
<http://www.panrolling.com/>

TEL03-5386-7391 後藤
 E-mail; goto@panrolling.com